みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

コペンハーゲン・グリーンランドにおけるイヌイト民族資料調査概報

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2015-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齋藤, 玲子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5614

北海道立北方民族博物館研究紀要　第6号（1997.3）

コペンハーゲン・グリーンランドにおけるイヌイト民族資料調査概報

齋　藤　玲　子*

On the Survey of the Inuit Materials in Museums of Copenhagen and Greenland

Reiko SAITO

1．はじめに

趣旨

展示、普及、および資料収集の前提となる調査研究は、博物館の基本的な活動として位置づけられている。当館では、北方諸民族に関する実物資料はもちろん、文献、映像資料、音響資料を継続的に研究してきたが、これらの情報を多くもつ研究機関が所在する海外、特に対象としている民族の居住地において、資料調査と諸民族のおかれている現状を把握することは不可欠である。これまで開館前の平成元年度に資料収集のため北欧と北米に、平成4年度にアメリカ、平成6年度には北欧に当館職員が赴いて調査や収集活動を行ってきており、それらの経験をもとにしながら調査の計画を立てた。

今回の海外民族調査では、グリーンランド・イヌイトに焦点をしぼり、デンマークの首都コペンハーゲンならびにグリーンランドの主要博物館をはじめとする関係機関において、物質文化を中心とした調査を行うこととした。当館の展示において、イヌイトの資料は数量的にも質的にも重要な位置を占めるものの、アラスカやカナダに比べると、グリーンランドの資料については点数も情報も少ないため、できるだけ多くの資料を観察し、付随する情報を収集する。それとともに、現代においてどのような形で文化が継承されているのかについても見聞し、資料収集の可能性も探った。

また、当該地域の研究機関ならびに研究者とは、これまでにシンポジウムへの招聘や印

* 北海道立北方民族博物館学芸員

キーワード　グリーンランド、イヌイト、博物館、資料返還
Key Words　Greenland, Inuit, Museum, Repatriation

刷物の交換なども行われておらず、日本人研究者もあまり現地調査を行なっていないことから、物質文化に関する情報を収集するのみならず、訪問先の施設・研究者とのネットワークの確立をもめざした。

当然のことながら博物館の機構や活動について、長い歴史を持つヨーロッパの博物館としてのデンマーク国立博物館と、自立を目指すグリーンランド・イヌイトの文化の拠り所としての博物館という二つの視点から、博物館がそれぞれの社会でどのような役割を果たしているのかを知る機会にしたいとも考えていた。

調査予定

調査期間は平成８年８月３日～９月２日（30泊31日）で、前半はコペンハーゲン、後半はグリーンランド各地であった。

調査項目として考えていたものは、まず、博物館（歴史、組織、展示等）の概要についてで、要覧や年報等の印刷物があればいただく。これは事前に郵便でお送りいただけた館もある。さらに、イヌイト資料を中心に北方諸民族資料のコレクションについて、その成り立ち（誰がどこで収集したものか）と保存・管理の状況を調査する。可能であれば収蔵庫に入り写真撮影や計測、資料カードの閲覧・コピーを願い出る。また、実物資料だけではなく、関連する文献について、書庫等での閲覧・コピー等を行う。各館でこれまでに出版した北方諸民族関係の図録や研究報告なども余部があればいただく。

聞き取りとして、資料の収集計画や収集方法について質問したり、当館がイヌイト資料を収集する際のアドバイスをいただく。以上のような項目を書き出しておき、各館を訪問した初日にスケジュール確認や担当者との打ち合わせをした。

また、博物館以外では、文化保存団体等においてその活動内容を視察したり、販売している工芸品の種類・価格等についても調査する。

準備

平成８年当初からスカンジナビア政府観光局等をつうじてデンマーク、グリーンランドの博物館等関連機関、交通・宿泊情報などを集めはじめた。また、国内の研究者でグリーンランドでの調査経験のある方々から受け入れ先の紹介をしていただき、訪問先に手紙を出した。いずれの機関でも、快く受け入れて下さる旨のお返事をいただいた。

出張に先立ち、グリーンランドの概況（自然・歴史）とグリーンランド・イヌイトの研究史について調べ、館長を交えた館内の研究会で発表を行い、現地での調査の助言をいただいた。

また、当館所蔵のグリーンランド・イヌイト資料（46点）についての情報を持参するため、写真をプリントし、パソコンに入力してあったデータをプリントアウトした。

２．グリーンランド（グリーンランド語でKalaallit Nunaat）の概況

グリーンランドは北緯60～83度に位置し、面積は2,175,600㎢で日本の約６倍と世界最大の島であるが、国土の80％以上が氷に覆われている。人口は1990年で55,558人。1950年に比べると倍増しており、1980年以降も全島では微増しているが、島内の大きな町へ人口が集中化している。集落は海岸沿いに点在し、特に西部に多い。気候は、地域によって差異が著しく、南西部は冬でも海氷が発達しない。西海岸に位置する首都のヌーク（北緯64度）で年間平均気温－1.9℃、８月の平均気温は6.0℃である。

グリーンランドは「エスキモー文化」の最東端に位置し、その研究史上、重要な地域として注目されてきた。約4,000年前までに最初の居住者が現れた後、近現代までつらなる「エスキモー文化」の基礎となったチューレ文化の担い手たちは、ベーリング海峡あたりの地域から拡散し、10～11世紀にグリーンランドに到達したことが知られている。同じ頃スカンディナビアからグリーンランドに移住してきたバイキングの末裔が1500年頃までに姿を消したのに対し、イヌイト（エスキモーのこの地域での自称）の祖先たちは極北の地に適応し、生活を続けてきた。

グリーンランドには、1721年に再びデンマーク・ノルウェー同君連合から宣教師が来て宣教と交易の拠点が設けられ、実質上植民地となった。1814年に同君連合が解消されると、デンマークの領土とされた。1933年には常設国際裁判所判決によって、デンマークの主権が確定され、現在にいたる。しかし、人口のおよそ８割がイヌイトのアイデンティティを受け継ぐグリーンランダー、残り２割が非グリーンランダーであることから「デンマーク王国内において特別の民族社会を構成する」として、1979年に内政自治が認められ、さまざまな権限が国家から委譲されてきている。

内政自治とはどんなものかというと、グリーンランド内における文化・産業・福祉・環境などに関する権限が国家から委譲され、立法や行政も独自に行える。しかし、外交や安全保障などの対外政策および通貨政策に関する事項などは委譲されない。対外関係のうちＥＣは域外化（デンマークは1973年にＥＣ加盟）で、同島漁業産品の対ＥＣ市場無関税輸出承認や一定期間におけるグリーンランド水域でのＥＣに対する漁業許可承認などができることになっている。

主たる産業は漁業であり、日本への輸出も少なくない。工業、建設、貿易、運輸などの業種が比較的多い。近年は役所や教育、福祉関係の仕事に就くグリーンランダーも増えている。ハンターは人口の１～２％程度であるが、家族を含めると狩猟によって生計を立てている人は４～５％と考えられている。

エスキモーの総人口の約半数はグリーンランドに居住しており、カナダ、アメリカ（アラスカ州）、ロシア（シベリア東端）と違ってイヌイトが社会のマジョリティとなってい

る唯一の地域である。その特殊な地理的要因から、言語や狩猟などの独自の文化が今も継承されてきている。

以上のような理由から、グリーンランド・イヌイトについて調査することは、先史時代から現代にいたるまで、エスキモー文化研究のなかで重要であるといえるだろう。

3．主な訪問地と施設

○デンマーク国立博物館（The National Museum of Denmark / Nationalmuseet）〔8月5日～16日〕

・概要／組織

本館は、コペンハーゲンの中心部に位置し、皇太子の宮殿として使われていた建物を改築したものである。1670年頃フレデリク三世によって設置されたロイヤル・アート・コレクションに起源を持ち、1807年に国家の文化・歴史博物館として設立された。1854年にその一部が皇太子宮殿に移管され、1892年に全ての収蔵品が集められた。

本館の主なコレクションは、デンマークの先史から現代までの文化に関する資料と世界中の民族誌資料、古代遺物とコイン・メダル資料である。また、館内には「子ども博物館」もある。1992年にリニューアル・オープンし、約10,000m²の展示スペースがある。

本館のほか、コペンハーゲンの北部郊外にブレーデ博物館（Danish National Museum, Brede/Bredemuseet）と野外博物館（Open-air Museum/Frilandmuseet）の国立博物館分館がある。ブレーデ博物館は主として衣類や織物に関する資料を展示しており、25,000m²の収蔵庫を併設している。これは、本館が手狭になったため、ほとんどの資料を郊外のブレーデに移したもので、本館の収蔵庫には少数の資料しか置かれていない。ブレーデには保存管理部門があり、約100人の職員が配置されているとのことである。今回は時間的な余裕がなく、展示を見ただけである。

同館は、９つの分野で約120名の研究者を擁する大規模な研究機関でもある。研究分野は以下のとおりである。

民族誌／グリーンランド考古学（Ethnography and Greenland Archaeology）、近代デンマーク史／民族学（Modern Danish History and Ethnology）、保存／古代技術（Conservation and Ancient Technology）、海洋考古学（Maritime Archaeology）、自然科学；考古年代測定／第四紀地質学／古植物学（Archaeometry, Quaternary Geology and Palaeobotany）、貨幣学（Numismatics）、デンマーク先史学（Danish Prehistory）、デンマーク中世学（Danish Middle Ages）、古代遺産；古代考古学／近東考古学／エジプト学（Classical Archaeology, Near Eastern Archaeaology and Egyptology）

伝統ある博物館の民族誌部門には８人の研究員がおり、受入れの窓口となってくださっ

たメルゴー（J. Meldgaard）博士はグリーンランド考古学の第一人者である。グリーンランド国立博物館で展示しているキラキツォークのミイラの調査にも参加している。北方民族全般を担当しているギルバーグ（R. Gilberg）氏は、スミソニアンで刊行している*Handbook of North American Indians vol.5 Arctic*中、'Polar Eskimo'の章を執筆しているグリーンランドの専門家でもあるが、アジアも含め広範な地域の民族に詳しい。同氏からいただいたご自身作成のグリーンランド関連文献のリストは、大変有用である。資料データベースの使い方からそれぞれのコレクションの成り立ちまで、さまざまなご教示をいただいた。日本や中国などの地域を担当するホーンビュ（J. Hornby）氏は、1983年に開催された「日本」展のため来日したことがあり、アイヌ文化に関する情報収集も行っている。「日本」展の図録や同館収蔵のアイヌ資料リスト、写真などのコピーについて便宜を図っていただいた。

民族誌部門は、グリーンランド事務局を併設しており、関係資料の展示・整理・管理を行いながら、徐々にグリーンランドへ返還するための事務を進めている（４章参照）。グリーンランド・イヌイトだけで13,000点を越すコレクションの中から、毎年展示替えも行っている。担当者のホーゲン（B. Haagen）氏には、本館内の収蔵庫の一部を案内していただき、グリーンランド資料のコレクション別リストをいただいた。

・展示

民族誌部門の常設展示は22室から成っている（本館はもと宮殿だったため、展示室は比較的小さな部屋に分かれている）。導入部分の３室はイヌイトのコレクションで、そのほかアメリカ、アジア、アフリカ、オセアニアなど世界中の民族資料を展示している。

この他に４室分がイヌイト資料の展示室に当てられ、グリーンランドへ返還する資料など、一部展示替えが行われている。96年の春から秋まで「グリーンランドへの返還」（Tilbage til GRØNLAND）と題する期間展示がされていた。ケースごとに展示状態の写真（Ａ４判程度）がついていて、期間展示終了後グリーンランドに返還される資料にはシールが貼られていた。この展示室ではデータベースを活用しており、各室に１台のパソコンのモニターが設置されている。そのスクリーンはタッチパネル式で、初期画面は個々の展示室の平面図になっており、見たい展示ケースの部分を触ると資料が展示された状態のケースを正面から見た画面になり、さらに個々の資料に触れるとその情報が資料カードのような画面となって表示される仕組みになっている。個別資料の情報は、番号・資料名・サイズ・素材をはじめ、どこから（収集地）・どのように博物館に収蔵されたか（収集者・寄贈者／機関など）・何に使うか（使用法）・類似資料（それがどこで見られるか／展示しているか）と、さらに関連情報が（e.g.同じ民族・同じ素材などのジャンルでも）検索できる。この展示室には説明文のパネルはあるが、個々の資料には資料名などの展示ラベル（ネームカード）はついておらず、パソコンで見るようになっている。

・収蔵資料

民族誌部門のコレクションの成り立ちについて、イヌイト資料を中心に北方民族資料の概要を示す。

グリーンランド・イヌイトのコレクションとしては世界最大の規模で、研究の中心の一つとなっている。1980年代以降、グリーンランドへの資料返還を進めているが、返還前の資料数は13,000点を超していた。なかでも有数なコレクションとしてはグスタフ・ホルム（G. Holm）が、1884－85年に東部のアマサリク地域で収集したもので、民族学的フィールドワークの黎明期にあたるものとして評価されている。これらの資料は100周年を記念して、厚いカタログが作成され、グリーンランドに返還された（4章参照）。

同館の民族誌部門の研究者として貢献したグリーンランド生まれのデンマーク人クヌド・ラスムッセン（K. Rasmussen）は、探検家としても有名で、数々の極北での学術調査を組織し、これらの調査で収集された物の多くが国立博物館に収められている。特に秀逸なのが第5次チューレ探検隊によるもので、カナダのネツリック・イヌイトのものが多数含まれている。ラスムッセンは、実現できなかったシベリアでの調査の代わりに、1920年代後半を中心にモスクワの博物館との資料交換やロシア系ドイツ人などからの購入によって精力的に北東アジアの民族資料を集めており、同館にはイヌイト以外の北方民族の資料も数多く所蔵されている。データベースで検索したところ、シベリア・エスキモー約70点、チュクチ約30点、コリヤーク約160点、ウイルタ約120点、ニブフ約290点、ナーナイ約90点などが確認できた（一部重複していたりして正確な数字ではない）。ちなみにアイヌの資料もサハリンのものを含め、100点以上収蔵している。

○ポーラーセンター（Danish Polar Center / Dansk Polarcenter）〔8月13日〕

国立博物館からの紹介で訪れたポーラーセンターは、1989年にデンマーク政府の教育・研究省下の研究所として設立された。北極と南極（主にグリーンランドではあるが）での自然科学・人文科学全般にわたる調査を組織し、資金の確保から報告書作成までの研究を支援することと、情報センターとしての役割を持つ機関で、国際的な調査隊も送り込んでいる。国外の研究者に対しても、調査のアレンジなどの相談にのっているという。

図書館は、1993年に極北研究所（Danish Arctic Institute）、コペンハーゲン大学・エスキモー学科とポーラーセンターの図書を合わせて整理し直したとのことで、大変充実した蔵書を誇っている。情報サービス部門も備えているが、日本からは国立極地研究所以外の刊行物がほとんど収集できていないので、極地に関する研究報告の類はぜひ送ってほしいとのことであった。出版物も多数あり、一部を寄贈していただいたので、文末のリストを参考にされたい。

同じ建物内の極北研究所にはアーカイブズがあり、写真や地図などの資料の整理・保管作業を進めている。

また、コペンハーゲン大学・エスキモー学科（University of Copenhagen, Dep. of Eskimology）の教員や学生に供するスペースも確保されている。

○グリーンランダーハウス（The Greenlandic House / Grønlændernes Hus / Kalaallit Illuutaat）〔８月15日〕

研究機関以外で訪問したグリーンランダーハウスは、デンマーク本国に暮らすグリーンランド出身者の集会所として、さまざまな事業や生活相談などを行っている機関である。コペンハーゲン以外にもオーフス、オールボー、オーデンセの主要都市に所在している。

言語、芸能、工芸などの文化伝承活動の場としても機能しているため、図書室や工作室などもあり、機関誌・パンフレット類の発行や展示会の企画も行っている。また、毎日は開店していないが、グリーンランドの食材を購入できる店と、グリーンランド料理を食べられるカフェもある。工芸品類の販売も若干行っている。案内してくださったリサジャー（H. Risager）氏はジャーナリストで広報部門を担当しており、そのほか法律家やソーシャルワーカーもいるという。

○グリーンランド国立博物館・アーカイブズ（Greenland National Museum & Archives / Grønlands Nationalmuseum og Arkiv / Nunatta Katersugaasivia Allagaateqarfialu）〔８月19日～23日〕

グリーンランドの首都ヌークの市街地から歩いて数分、18世紀に植民港（Kolonien Godthåbs）として開けた海岸沿いの古い建物を利用している。デンマーク本国から返還される資料を収蔵するために1990年に拡張・改修されて近代的な設備が整った。

館長以下学芸員３名、アーキヴィスト２名、保存管理技術者２名ほか、司書・カメラマン・営繕係など全職員18名が勤務している。規模的には当館と同じくらいといった感じであるが、受付にはコンピューターや監視カメラなどの機器が備えてあり、少なくない来館者や物販の対応も一人で行っている分、専門職の割合が多いのが印象的であった。

発掘調査や夏休みなどで職員は入れ替わり立ち替わり館を空けていたが、学芸員一人を除いて全員と顔をあわせることができた。館長のロージン（E. Rosing）氏は北海道に来たことがあり、アイヌ文化にも関心を持っていた。

・展示

展示室に入るとすぐ中央にグリーンランド各地の男女・子どもの衣服がずらりと並んでいる。その周囲に、発掘された遺物が時代区分ごとに展示されていて、グリーンランドの歴史がわかるようになっている。このコーナーのみ、英語のパネルとパンフレットが用意されているが、その他の展示室での表記は、デンマーク語とグリーンランド語である。

展示の目玉となっているのが、西海岸中部の島のキラキツォーク（Qilakitsoq）で発見されたミイラで、４体がガラスケースに収められており、衣類なども復元されている。い

くつかの研究報告書などが出ているように、学際的に研究されており、その成果も展示されている。

本国から返還されたG.ホルム収集の東部アマサリク地域の民族資料など貴重なものも多数ある。イグルーのジオラマ風展示などもあり、ガラスケースに収めるだけのデンマーク国立博物館よりも現代的な展示方法をとっている。自然史の展示もあるが、職員の専門分野は民族学と考古学であり、本館展示スペースのほとんどはイヌイトの民族資料で占められている。

別棟で樽工場を再現したもののほか、カヤックとウミアックの展示棟もある。博物館とは別の組織であるが、すぐ近くにカヤック協会（Qajak Association：カヤックの技術を継承する団体）の収納庫があり、屋外にも数隻のカヤックが置かれ、海で練習する光景も見かけることができた。

特別展としては、E.クヌスの彫刻展（Sculpture works from Ammassalik by Eigil Knuth）を行っていた。96年３月に他界したE.クヌスは彫刻家であり考古学者であった。21体のグリーンランダーの胸像と彼の業績について紹介するものであった。

95年は年間約16,000人の観覧者があったとのことである。周辺人口を考えれば、少なからぬ数字である。

・収蔵、管理部門

コレクション別索引では96年夏現在、2232番までのカードが公開されている（５章参照）。大きなコレクションでは数百の資料を含んでいるが、全体の資料点数は分からなかった（要覧にも記載されていない）。資料カードの閲覧やコピーをさせていただいたほか、約１日半収蔵庫で写真撮影も許可していただいた。

本国からの返還資料は毎年相当数あり、例えば1995年は約11,700点の考古資料と230点の民族資料がグリーンランド博物館に収められた。そのほか同館で独自に収集したものは、個人収集家からの寄贈が主であるということで、博物館設立の基礎となったグリーンランド・トレード・カンパニーからの工芸品類の寄贈資料が多数を占めているという。また博物館職員の毎年の発掘調査によっても収蔵資料が増えている。これらのことから、年々相当数が加わっており、総点数が公表されていないのかもしれない。

グリーンランド内の博物館では唯一保存・修復（conservation）の専門家（２人）がおり、発掘品の保存処理やデンマーク本国から返還された資料のチェック、展示のための修理・復元などを行っている。ここで扱いきれない貴重な資料や繊細なものは、素材別の専門家がそろっているコペンハーゲンに送られるという。

また、併設されているアーカイブズに研究員がいるが、多くの古文書類は少し離れた国立図書館の別棟に保管されている。通訳としてもお世話になった英語に堪能なフランセン（N. Frandsen）氏が、図書館とアーカイブズに案内して下さった。

○グリーンランド国立図書館（National Library of Greenland / Det Grønlandske Landsbibliotek / Nunatta Atuagaateqarfia）〔8月22日〕

国立図書館といっても保存や研究者等のための専門的なものだけでなく、子どもから大人まで利用できる広い開架部分を持っており、年間の本の貸し出しは100,000冊にのぼるという。視覚障害者のためにと朗読テープを揃えてあったり、子どもたちがイヌイトの昔ながらの技術を学べるスペースがあったり、と活発な活動を行っている。無料で開放しているインターネットの端末もあり、子どもたちで賑わっていた。グリーンランド内には77の図書館があるが、そのほとんどは学校内にあるという。

ちょうど訪問時には、グリーンランダーの画家（Paul K. Kristensen）の個展も開かれていた。この個展はグリーンランダーハウスの企画したものであった。

グリーンランドに関する文献コレクションのグリンランディカ（Groenlandica）は、当初グリーンランド大学内にあったが、現在は同図書館内に併設されている。植民地時代の新聞から漁業統計にいたるまでさまざまな分野の文献（含映像資料）を収集しており、10年前に目録も刊行している。グリンランディカ担当のハンセン（K. G. Hansen）氏は民族学を専攻していたとのことで、当館についても関心を示し、親切にご案内下さった。

○グリーンランド内政自治政府／文化・教育・宗教省（Greenland Home Rule Government, Ministry of Culture, Education and Church / Grønlands Hjemmestyre / Namminersornerullutik Oqartussat）〔8月23日〕

グリーンランド博物館館長の紹介で、政府庁舎を訪ねることができた。文化・教育・宗教省では学校、芸術、スポーツ、宗教に関わる行政を執り行っており、博物館もこの省の管轄下である。その他には社会福祉や漁労・狩猟・農業などに関する省庁と議会事務局などがある。

同省では現在、市街地に大きな文化会館を建設中であり、工事中の現場も案内していただいた。コンサートや演劇、映画が上演できる大ホールを中心に、展示や会議などを開催できる機能を備え、若手アーティストらが技術の習得や創作活動なども行えるアトリエもある。1997年の冬に開館ということであったので、もう利用されていることであろう。

○カコルトック博物館（Qaqortoq Museum / Qaqortup Katersugaasivia）〔8月26、27日〕

カコルトックは南部で最大の街であり、人口は約3,500人。冬でも海が凍らないため、一年中狩猟が可能で、良港であることから早くから植民も始まった。当時はアザラシ脂の輸出が主な産業であったという。

博物館は1972年に開館したが、やはり古い鍛冶工場の建物を改装したものである。専門職員は館長のニューゴー氏（G. Nyegaard：専門は考古学）一人という小規模なものだ

が、４艘のカヤックをはじめ、貴重な資料がところせましと展示してある。また資料のラベルもデンマーク語、グリーンランド語、英語、ドイツ語の４言語で記してあり、大変親切である。近年の年間来館者数は約5,000～6,000人台である。

訪問時ちょうど展示されていたのがヨアン・マルクッセン（Johan Markussen: 1906-1994）の絵であった。マルクッセンは、ナルサック近くの小さな集落に生まれ、若い頃の記憶をもとに、伝統的な生活の様子や精神世界を素朴なタッチで表現している。マルクッセンの作品は、後に訪れたナルサックの博物館でも展示していた。

その他のみどころとしては、博物館の建物のすぐ隣に復元された土で覆われた家があり、町の人たちによって建てられたという。老夫婦とその子ども夫婦の２世帯が住むという設定で、家の中には中央で間仕切りをした寝台と２つの石ランプなどがある。

収蔵庫は博物館の屋根裏にあり、民族資料以外のものも詰め込んであったが、数はそう多くはない。貴重なものは展示しているか、ヌークの博物館で保管しているとのことである。約半日ほど資料の撮影をさせていただいた。

カコルトック役場の一室が館長のニューゴー氏のオフィスとなっており、資料カードや写真・文献類のほか、最近寄贈されたという衣類なども一時保管してあった。カードはヌークで閲覧したものと同じ方式だったので、収蔵庫で写真をとった資料のデータを探すのは容易であった。

資料収集は、主に古いものを持っている人を探し当て、少額のお礼で寄贈してもらうとのことである。館長は、夏季ということもあってか、研究者や修学旅行生の案内のほか、町の老人からの聞き取り調査などで毎日忙しくしていた。

○ナルサック博物館（Narsaq Museum / Narsap Katersugaasivia）〔８月28、29日〕

グリーンランドの中でも比較的気候条件が良く、古くから人が居住し、古代スカンディナビア人の遺跡の多い地でもある。周辺の集落をあわせると人口は約2,150人。南部ではカコルトックに次いで大きな町である。ジャガイモ・ビート・ダイオウ（rhubarb）の一種など、野菜の栽培やヒツジ等の畜産業も盛んである。

博物館はやはり古い建造物を利用しており、一番大きい建物ではイヌイト文化と植民以来の歴史などを展示し、その他にも植民地時代の印刷工場や店を再現した建物やイヌイトの土の家と地質学上のコレクション（鉱物）展示館などがある。土の家は町の人によって再現されたもので、カコルトックのものに比べると新しい。

少し離れた場所にナルサック博物館管下のヘンリク＆マレーネ・ルンド記念館（Henrik and Malene Lund Memorial House ）がある。H.ルンド（1875-1948）は、首長としてこの地域の発展に寄与しながら、詩人・作曲家・画家として才能を発揮した人物である。彼らの住んでいた家をそのまま公開している。

開館は６～８月の夏季のみであるが、訪問したとき学芸員のオールデンボー（R.

Oldenburg）氏は夏季休暇中で、本国から帰省中の大学生アルバイトのクロー（L. Bo Krogh）氏が案内してくれた。事前に手紙で、工芸家の活動について関心を持っていることを伝えていたため、毛皮・羊毛製品の工場や工芸家の方々の工房などを案内していただいた。

○ナルサッサック博物館（Narsarsuaq Museum）〔８月30日〕

機構が穏やかなことからグリーンランドの空路の拠点ともなっており、戦時中はアメリカ軍の駐留地となっていたが、戦後撤退し今は人口150人の小さな集落である。

観光案内所に併設されており、展示の公開しかしていないようである。展示はナルサッサックの自然や産業と、軍事資料を中心としたものであった。

○工芸品店等

デンマーク国立博物館職員の紹介でコペンハーゲン市内のイヌイット／エスキモー・アート・ギャラリー（Inuit: Eskimo Art Gallery）に行った。現在はグリーンランドから1940年以前の古い資料を輸出することができないが、19世紀末から今世紀前半に研究者や宣教師などとしてグリーンランドに渡った際に収集した民族資料が本国内に残されていて、それらと現代の工芸品や絵はがき、書籍なども取り扱っている店である。店のマダムによれば、グリーンランドでは古い資料の購入は無理だろうとのことであった。ギャラリーの中央には狩猟具を積んだカヤックが置かれ、その他伝統的な衣類を身につけたマネキンなどいくつかのものは看板がわりで売り物ではないとのことだったが、銛・漁撈具・仮面など博物館資料として価値の認められるものが多かった。滞在中に３度足を運び、許可を得て30点あまりの資料の写真撮影・計測・データの聞き取りなどをさせていただいた。これらのうち17点は、その後当館の資料収集評価委員会の会議を経て、購入した。

コペンハーゲン市内で紹介されたもう一つの店フォーカス・グリーンランド（Focus Greenland）は毛皮製品や工芸品、グリーンランドに関する書籍やＣＤなどを扱っているが、古いものはなかった。

ヌークのアークティス・ガヴェショップ（Arktis Gaveshop）は、以前は伝統的なものの複製品などを扱っていたが、92年にオーナーが代わってから、みやげ物が中心である。工芸品のほかは若干の模型類がある程度であった。博物館のピーターセン（M. Petersen）氏から個人のコレクターの方の連絡先を教えていただいたが、連絡が取れなかった。そのほか、ヌークには皮製品の共同作業所キタット（Kittat）があり、見学したが、ピーターセン氏によればこれも博物館として収集するようなものは作っていないとのことであった。しかしながら、伝統的な技術を継承し、グリーンランダーの雇用の場ともなっているキタットの活動については、参考にすべき点があるように思う。

4．デンマークからのグリーンランド文化資料の返還

ヨーロッパやアメリカの博物館で近年クローズアップされてきた問題として、資料の現地への返還の動きがある。同じデンマーク国家のもととはいえ、物理的にも遠く離れたグリーンランドでは、内政自治施行後、本国にあるグリーンランドの文化資料を現地に返還する作業が進められている。ここでは、デンマーク国立博物館グリーンランド事務局のホーゲン氏の報告［Haagen 1995］を抄訳するかたちで、その概要を紹介したい。

1976年、グリーンランドの地方議会でグリーンランドの文化遺産の所有権についての議論がわきあがった。このとき、特にデンマーク国立博物館のグリーンランド・コレクションについて言及された。

それより以前の1967年、個人らの寄贈資料を根幹とした一つの博物館がグリーンランドに設立されていた。1972年、この博物館はデンマーク政府によって地方博物館として認可された。1978年には研究者が配置され、現在の場所に移転した。

1979年に内政自治が認められ、81年には同博物館も本国の博物館法下から内政自治政府の管理下に入った。同年デンマーク国立博物館にグリーンランド事務局が設置され、資料の返還作業が本格的に開始された。1984年には、デンマーク国立博物館とグリーンランド国立博物館間で協定が結ばれ、それぞれの代表からなるデンマーク・グリーンランド博物館委員会（The Denmark-Greenland Museum Commission）を設置、返還する資料について毎年協議を行い、ガイドラインを定めている。文化資料の範疇には民族資料（実物）のみならず、考古資料、絵画や写真なども含まれる。1982年に２人のグリーンランダーの描いた絵画コレクションが返還されたのをはじめ、1986年にG.ホルムの収集したアマサリクの民族資料約750点などが順次返還されている。

＊民族資料以外でも地質学・動物学の資料類について本国の博物館や大学とグリーンランド博物館とのあいだに同様の協定ができている。

グリーンランドに返す前に、各コレクションは記録書類を作り登録しなければならない。これはデンマーク国立博物館のデータベース（GENREG）でなされている。同時に写真撮影をし、データベースに取り込んでいる。写真はカラーのポジで、検索の容易なビデオ・ディスクにも収められている。グリーンランドの博物館でもＤＭＩ（Danish Museum Index）を用いることを決めているため、データベースは供用できる。

協定は、首都ヌークのグリーンランド国立博物館間のみに適用されているため、グリーンランド内には国立博物館に加え14の地方博物館があるが、返還資料はすべて国立博物館に所蔵されている。そこで現在グリーンランドの博物館関係者らは、資料が収集された地方の博物館に戻すよう決議を進めている。

５．資料カードと分類法について

デンマークの歴史系博物館には共通する資料分類の記号（主に用途別）が、１冊の本にまとめられている（“Saglig registrant for kulturhistoriske museer”）。グリーンランドでもこの分類を採り入れており、概略を理解すれば他の博物館においても同じ方法で検索が可能であり、大変便利なものであったので、以下に概要を示す。

グリーンランドの資料カードは、受け入れ時の情報やコレクション全体の情報を記入するものと個別資料のカードに分かれている。

グリーンランド国立博物館では、入手先・入手時期を一にするコレクションごとのカード（複数点の資料を含む）と、これに対応する来歴等のファイル、資料１点ずつのデータが記入された通称ブルーカードと呼ばれる青色のカードの３種類がある。１番目のカードは索引のようなもので記録番号（コレクション番号）、収集先、日付、資料点数、写真番号、参考資料などが書かれている。２番目のファイルはＡ３二つ折りの大きさで１番目のカードと対応し、コレクションの移管・購入時等の書類やコレクターの手紙、資料リストなどの関係書類が挟み込まれている。表にコレクターや収集の経緯などが記されている。３番目のブルーカードには、個別資料の素材や使い方、サイズなどを記入し、写真やスケッチが付いている。

１・２のカードはコレクション番号順に収められているが、ブルーカードは、分類記号別（同じ分類の中ではコレクション番号順）にストックされている。目的別の資料を探し出しやすいシステムである。

分類は、デンマーク本国の博物館を基本に作られたものなので、解釈を変えた使い方がなされている。分類記号はアルファベットと数字の組み合わせで、例えばＡで始まるものは「自然」、Ｂは「人類」、Ｃが「民族」に属するものであるが、グリーンランドの博物館の場合、ほとんどの資料が「民族」にあてはまってしまうので、イヌイトのものはここに入れていない。

比較的資料数の多かった「衣類や装飾品」を示すＮを例に分類記号の構成を見てみると、Ｎ１は衣服一般、Ｎ２は男性用、Ｎ３は女性用などとなっており、そのあとに小文字でｃが上着、ｄがズボン、ｅが帽子などの被り物となっている。つまり、Ｎ２ｅであれば男性用帽子である。このほか、D12；信仰、Ｅ３；船（カヤック、ウミアック関係品）、Ｅ８；氷上の移動手段（橇など）、Ｆ６；狩猟、Ｆ７；漁労、Ｊ２；家具・日用品、Ｐ；アート・遺物なども資料数が多かった。

グリーンランド国立博物館とカコルトック博物館では、自由にカードを閲覧させていただくことができた。基本的にデンマーク語とグリーンランド語併記であった。ブルーカードの書式は全く同じであったが、カコルトック博物館はブルーカードのほかに受け入れカード（modtageseddel）と呼ばれるものが、グリーンランド国立博物館の１・２の

カードの代わりに用いられていた。

また、デンマーク国立博物館では、実際にカードを手に取ることができなかったが、データベースで収蔵資料や管理方法の概要を知ることができた。リニューアルのために10年ほど前に整備されたもので、文字情報のみならず画像もビデオディスクに収められている。画像はカラーモニターで見ることができ、モノクロで約7×9㎝のサイズではあるが、すぐにプリントアウトすることもできる。同館では世界中の民族の資料を収蔵しているので、HRAF（Human Relations Area Files, Inc）が刊行した「地域・民族分類（略称OWC；Outline of World Culture)」を採り入れている。大阪の国立民族学博物館でもOWCを使用しているので、ある程度なじみがあり、検索も容易であった。

6．おわりに

時間的な制約や報告者の調査経験の未熟さから、実際は目的としたことの半分も果たせなかったように思う。民族芸術の歴史や文化継承の意味から、カヤックやウミアックの模型に関心を持っていたが、ほとんど調べることができなかった。また、交通の不便さと日程の都合でグリーンランド北部や東部へ行けなかったことも大変残念であった。

しかし、日本ではあまり知られていないグリーンランド・イヌイトの文化をとりまく現況について、短期間ではあったが実地調査をした立場から、少しでも多く紹介する機会を作ることがお世話になった方々へのお礼と考えている。平成10年2～3月の当館での企画展を中心に、成果を還元していきたい。

この調査に関しては、報告者は他にも以下の短文を書いた。

・「平成8年度海外民族調査報告」『北方民族博物館だより』第23号　pp.6-7（1996.10.25発行）

・「スーパーマーケットと市場」『Arctic Circle』21号（北海道立北方民族博物館友の会季刊誌）pp.12-14（財）北方文化振興協会（1996.12.21発行）

・「北極海と大西洋にはさまれた世界最大の島　グリーンランドの人と自然」『網走新聞』(1997.1.1付)

また、文献や写真その他の情報についても当館か報告者が所持しているので、関心のある方はご連絡いただきたい。これらの資料の貸し出しなどでお役に立てれば幸いである。

なお、本文中で便宜的に和訳あるいはカタカナ表記した固有名詞等については、もともとデンマーク語かグリーンランド語あるいは英語で表記されていたものであり、正確な意味や発音と異なる点が多数あると思われるが、できるだけ本来の名称を併記したのでご了承いただきたい。

謝辞

現地の博物館や研究者について、北海道立アイヌ民族文化研究センターの谷本一之所長、当館岡田宏明館長に紹介ならびに情報提供をしていただいた。また、カコルトックでは、役場にお勤めの日本人カミヤ　ヨシカツ氏とナンナさんご夫妻に大変お世話になった。また、現地観光局の方々は親切に情報提供をしてくださった。このほかにもお名前を挙げられなかった多くの方々に親切にしていただいた。最後になってしまったが、準備期間を含め長期間この調査のために時間を費やすことができたのは、職場の同僚のサポートのおかげである。記して感謝申し上げます。

参考文献

本調査で入手した文献以外のものについて記す。

ジェサン、R.

1977(1969)『アマサリク　エスキモーと文明』（宮治美江子訳）思索社

石渡　利康

1995『北極圏地域研究』高文堂出版社

ラウス、アーヴィング

1990(1986)『考古学への招待　先史時代の民族移動』（小谷凱宣訳）岩波書店

KLEIVAN, Helge

1984 Greenland Eskimo: Introduction. *Handbook of North American Indians. Vol.5 Arctic.* Smithsonian Institution.

1984 Contemporary Greenlanders. *Handbook of North American Indians. Vol.5 Arctic.* Smithsonian Institution.

Hart Hansen, Jens P. , J. Meldgaard and J. Nordqvist

1985 The Mummies of Qilakitsoq. *National Geographic vol.167, no.2*

調査期間中に現地で入手した博物館等の出版物・書籍・CD・ビデオなどは、以下のとおりである（ただし、筆者個人が購入し所有するものも含む）。また、このほかにもパンフレット類を多数入手した。

・CD

Hauser, Michael (1992) *Traditional Greenlandic Music.* ULO

・ビデオ

Kleist, Isak (1995) *Greenland: The Land of Challenge.* Isak Kleist

・地図

Nuuk / Historisk Guide Vesterbygden.(1991, 1993) saga maps

Qaqortoq / Uumannarsuaq (1992) saga maps

Narsarsuaq / Taateraat Kangersuasiat (1992) saga maps

Paamiut / Ivittuut (1992) saga maps

・書籍類

1984 *Timmissat amii (Birdskin).* Pilersuiffik

1986 *Amernik meqqulinnik katiterineq.* Pilersuiffik

1987 *Ujallut.* Pilersuiffik

1994 *Nunaarsussuup saqqaa(Changing Times in Housing and Everyday Life).* Eskimo Management ApS

The geology of the Nuuk region. Nunaoil AS

Aschehoug Fakta i samarbejde med Nationalmuseet

1993 *Besøg Historien: Børn og foraeldre.* Komma & Clausen

Berglund, Joel

1982 *HVALSØ: the Charch and the Magnate's Farm.* Qaqortoq Commune

Berthelsen, Chiristian etc. ed.

1993 *Greenland Atlas.* Atuakkiorfik

Boertmann, David & J. Fjeldså

1988 *Grønlandske fugle.* Pilersuiffik

Bruun de Neergaard, Helga

1987 *Avittat (Greenlandic Sealskiin Embroideries)*

Danish Polar Center

1994 *Annual Report 1993.* Danish Polar Center

1995 *Annual Report 1994.* Danish Polar Center

1996 *Årsberetning 1995.* Dansk Polarcenter

1996 *Danske Polarforskere: En vejviser.* Dansk Polarcenter

1996 *Tema: Eigil Knuth　tusaat: forskning i Grønland.* Dansk Polarcenter

Departement d'Anthropologie Universite Lavel

1988 *The work of Knud Rasmussen. Études INUIT Studies Vol.12.* Departement d'Anthropologie Universite Lavel

Egede, Ivalo ed.

1991 *Conservation of nature in Greenland.* Atuakkiorfik

Eller, Poul & K. Malling

フレデリクスボー城国史博物館（フィッシャー緑訳）. Frederiksborg Museet

Etnografisk Samling ed.

1994 *Vestgrønlandske Dragter.* Nationalmuseet

1996 *Tilbage til Grønland.* Nationalmuseet

Feilberg, Jon ed.

1984 *Grønlands Blomster (Flowers of Greenland).* Ahrent Flensborgs Forlag

Frederiksen, Thomas

1980 *Grønlandske Dagbogsblade.* Syldendal

Geertsen, Ib

1981 *Grønlandske Masker (Greenlandic Masks).* Rhodos

Gilberg, Rolf

1994 *Mennesket Minik: En grønlaenders liv mellem 2 verdener.* ILBE　M

1988 *Greenland seen through 50 years of stamps 1938-1988.* The Greenland Post Office

Greenland Secretariat

1985 *Gustav Holm Samlingen (Gustav Holm Collection).* Pilersuiffik

Gronlands Nationalmuseum & Arkiv

1996 *Årsberetning 1995.* Gronlands Nationalmuseum & Arkiv

Haagen, Birte

1995 *Jacob A.A.Arøe: Tidlige billeder fra Grønland.* Rhodos

1995 Repatriation of Cultural Objects in Greenland. *Yumtzilob 7.3* Tijdschrift Over de Americas Jaargang

Hansen, Jens Peder Hart & J.Meldgaard, J.Nordqvist ed.

1985(1991) *The Greenland Mummies (English Edition).* The Greenland Museum

Hansen, Keld

1979 *Perler i Grønland.* Nationalmuseet

Heart Hansen, J.P. & H.C.Gullov ed.

1989 *The mummies from Qilakitsoq -Eskimos in the 15 century. Meddelelser om Grønland: Man & Society 12.* Danish Polar Center

Hertling, Birgitte

1993 *Greenlandic for travelers.* Atuakkiorfik

Hoyer, Benny ed.

1986 *Groenlandica: Catalogue of the Groenlandica-collection in the National Library of Greenland.* Nunatta Atuagaateqarfia

Kurelek, William

1976 *The Last of the Arctic.* Pagurian Press Ltd.

Lynge, Aqqaluk
1993 *Inuit: The Story of the Inuit Circumpolar Conference.* Atuakkiorfik
Meldgaard, Jørgen
1982 *Aron.* Nationalmuseet
Miller, Kenneth E. (compiler)
1991 *Greenland (World Bibliographical Series vol.125).* Clio Press
Nationalmuseet
Nationalmuseet 1992. Nationalmuseet
Nielsen, Jørgen G.& E.Bertelse
1992 *Fisk i grønlandske farvande.* Atuakkiorfik
Oldenburg, Rie
1993 *Henrik Lund.* Narsaq Museum
Petersen, H.C.
1986 *Skinboats of Greenland.* The National Museum of Denmark
1981 *Instruktion i kajakbygning (Instruction in Kayak Building).* Atuakkiorfik
Petersen, H.C. / Lund, Kistat
1994 *Anngannguujuk.* Atuakkiorfik
Qaqortoq Museum
1996 *Qaqortoq Museum Årsberetning 1995.* Qaqortoq Museum
Rix, Lotte
1979 *Grønlandske skinddragter: Skindbehandling, snitmønstre, syteknik og Working Papers The National Museum of Denmark 11.* The National Museum of Denmark
Rosing, Emil
1994 *Tunuamiut Aarnuaat (Ostgronlandske Amuletter).* Atuakkiorfik
Silis, Ivars
1995 *Stone and Man: Nordic Art Project in South Greenland.* Nordic Council of Ministers
1995 *Frozen Horizons, The World's Largest National Park.* Atuakkiorfik
The Danish Polar Center & The Commission for Scientific Research in Greenland
1996 *Newsletter No.29.* Danish Polar Center
Vebaek, Maliaraq / Hoegh, Aka
1995 *Besøg hos Havets Moder.* Atuakkiorfik

訪問施設・対応者一覧

施設名	英名 English Name	住所 Address	Tel. & Fax.	職名 Official Title	氏名 Name
デンマーク国立博物館	National Museum of Denmark	Ny Vestergade 10, DK-1220 Copenhagen K	T.33 13 44 11 F.33 47 33 20	Director of Dep. of Ethnography	Torben Lundbaek
				Curator	Jørgen Meldgaard
				Curator	Rolf Gilberg
				Curator	Birte Haagen
				Curator	Joan Hornby
				Librarian	Ole Jørgensen
ポーラー・センター	Danish Polar Center	Strandgade 100 H DK-1401 Copenhagen K	T.32 88 01 00	Director	Morten Meldgaard
			F.32 88 01 01	Information Officer	Kirsten Caning
極北研究所	Danish Arctic Institute	Strandgade 100 H DK-1401 Copenhagen K	T.32 88 01 50	Director	Jens Snellman Fabricius
			F.32 88 01 51	Librarian	Henriette Berg
コペンハーゲン大学	University of Copenhagen, Dep. of Eskimology	Strandgade 100 H DK-1401 Copenhagen K	T.32 88 01 00 F.32 88 01 61	Associate professor	Michael Fortescue
グリーンランダー・ハウス	Greenlander House	Lovstræde 6 P.O.Box 1042, DK-1007 Kopenhagen K	T.33 91 12 12 F.33 15 75 90	Culture and Information	Helene Risager
グリーンランド博物館	Greenland National Museum & Archives	P.O.Box 145 DK-3900 Nuuk Greenland	T.2 26 11 F.2 26 22	Director	Emil Rosing
				Assistant Curator	Maliane Petersen
				Assistant Curator	Joel Berglund
				Archivist	Niels Frandsen
				Conservator	Henrik Thomsen
				Conservator	Margit Petersen
				Communication Adviser	Sofie Jessen
グリーンランド図書館	Groenlandica;National Library of Greenland	P.O.Box 1011 DK-3900 Nuuk	T.2 65 22 F.2 39 43	Head of Groenlandica	Klaus Georg Hansen
グリーンランド政府 文化・教育・教会省	Greenland Home Rule Government	P.O.Box 1029 DK-3900 Nuuk	T.2 20 73 F.2 30 00	Minister of Culture, Education and Church	Konrad Steenholdt
カコルトック博物館	Qaqortoq Museum	P.O.Box 154 DK3920 Qaqortoq	T.3 82 77	Director	George Nyegaard
			F.3 88 33	Attendant	Emil Motzfeldt
ナルサック博物館	Narsaq Museum	P.O.Box 39 DK3921 Narsaq	T.3 16 16 F.3 16 59	Museum Attendant	Lars Bo Krogh
工芸品店・アーティスト等					
イヌイット／エスキモー・アート・ギャラリー	Inuit: Eskimo Art Gallery	Kompagnistraede 21-1208 Kopenhagen K	T.33 12 79 77 F.33 14 56 60		Jytte Soelberg
フォーカス　グリーンランド	Focus Greenland	Hojbro Plads 3, P.O.Box 100, DK1004 Copenhagen K	T.33 36 06 60 F.33 36 06 61		
アークティス　ガヴェショップ	Arktis Gaveshop	H.J.Rinksvej 23, P.O.Box 234, DK3900 Nuuk	T.2 49 44 F.2 24 24		
キタット	Kittat (skin workshop)	Hans Egedesvej, DK-3900 Nuuk	T.2 88 87		
グリーンランド半貴石加工	Gronlands Smykkesten(Jewellery Crafts)	P.O.Box57 DK-3921 Narsaq	T.&F.3 15 18	Craftsman	Peter Lindberg
		Mestervej B-791 DK-3921 Narsaq		Artist (painter)	Kistat Lund
エスキモー　ペル	Eskimo Pels Aps	P.O.Box31 DK-3921 Narsaq	T.3 10 01 F.3 11 95	Manager	Hanne Hartvig

電話；デンマーク本国の国番号は45、グリーンランドは299

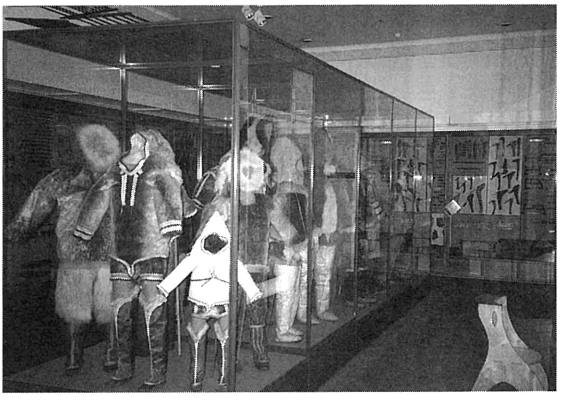


写真１：デンマーク国立博物館のグリーンランド資料展示室（Nationalmuseum of Denmark）

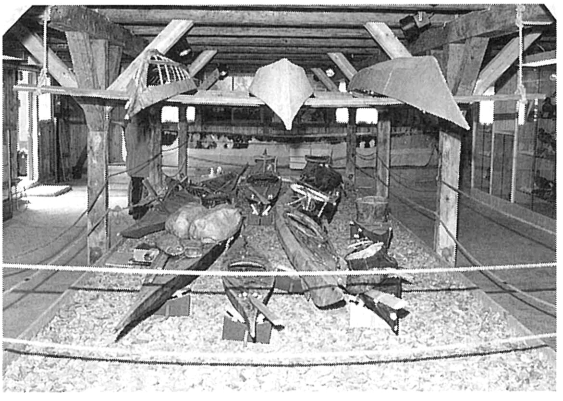
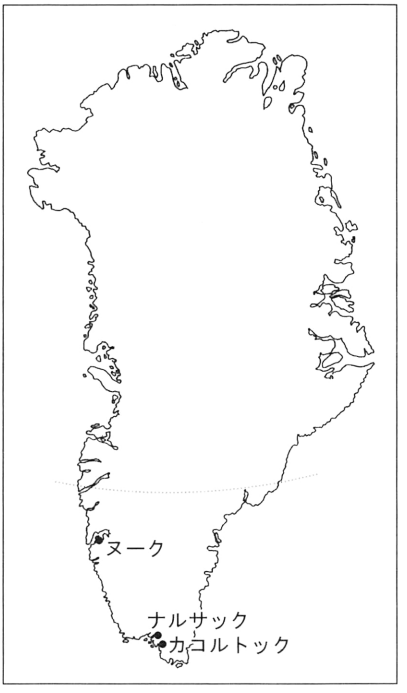


写真２：グリーンランド国立博物館のカヤック展示棟内（Greenland National Museum）

写真３：カコルトック博物館の土の家（Qaqortoq Museum）



図：グリーンランド内の訪問地